

アラゲヒラタキクイムシの 有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：アラゲヒラタキクイムシに関する有害動植物リスク分析の開始

1-1 開始：（開始するに至った問題の本質、目的）

アラゲヒラタキクイムシは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、アラゲヒラタキクイムシの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1-2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1-3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1-3-1 経路

アラゲヒラタキクイムシが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1-3-2 潜在的検疫有害動植物

アラゲヒラタキクイムシ（学名：*Lyctoxylon dentatum* (Pascoe)）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1-4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1-5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2-1 植物検疫上の取り扱いに影響するアラゲヒラタキクイムシの特性等

2-1-1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2-1-2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2-1-3 日本での分布状況及び公的防除の有無

アラゲヒラタキクイムシは、本州、四国及び九州に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2-1の結論

アラゲヒラタキクイムシは、本州、四国及び九州に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名	名	アラゲヒラタキクイムシ ^{5)、6)}
学名	名	<i>Lyctoxylon dentatum</i> (Pascoe) ^{5)、6)}
英名	名	
分類	類	コウチュウ目 (Coleoptera) ⁶⁾ ヒラタキクイムシ科 (Lyctidae) ^{5)、6)}

分布：(日本) 本州、四国、九州^{1)、5)}
(世界) インド、マレー半島、インドネシア、ケニア、モザンビーク、北米などに分布。^{1)、4)、5)、9)}

寄主植物：ラワン、タケ、ゴムなど。^{1)、3)、7)、9)}

形態・生態：成虫の体長は 1.5 ～ 2.5 mm。成虫は赤褐色で短い刺毛に覆われる。幼虫は乾いた木材の中へ穿孔し、成虫となって出現する。^{1)、3)、4)}

被害：本種を含むヒラタキクイムシ科は、我が国では典型的な家屋害虫、乾材害虫として知られている。本種は竹材、ラワン材などを食害する。^{1)、3)、4)、7)}

ベクター

・系統：植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生の有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。²⁾

防除法：樹木類（伐採木）、木材について、せん孔虫に対する登録農薬がある。⁸⁾

文献：1) 雨宮昭二・野淵輝（1986）ラワン材の防虫. わかりやすい林業研究解説シリーズ 68, 林業科学技術振興所、92 pp.
2) CAB International (2009) Plant Protection Database (1972-2009). SilverPlatter International N. V. (<http://web5s.silverplatter.com/webspirs/start.ws>)
3) 林長閑（1984）家屋・食品に見られる鞘翅目（甲虫目）の形態と生態. 日本家屋害虫学会編、家屋害虫、p24-47、井上書院、東京。
4) 岩田隆太郎（1988）日本産ヒラタキクイムシ科の分類および各種の分布と生態的特性について. 家屋害虫、45-54.
5) 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 編（1999）日本産昆虫目録データベース. 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室。
(<http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>)
6) 日本応用動物昆虫学会 編（2006）農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会. 東京：387pp.
7) 野淵輝（1984）乾材害虫ヒラタキクイムシ類と防虫処理剤.
日本家屋害虫学会編、家屋害虫、p232-239、井上書院、東京。
8) 独立行政法人農薬検査所. 農薬登録情報検索システム. 農林水産消費安全技術センター. (<http://www.acis.famirc.go.jp/>)
9) Sittichaya, W., R. A. Beaver, L. Liu and Ngampongsai (2009) An illustrated key to powder post beetle (Coleoptera, Bostrichidae) associated with rubberwood in Thailand, with new records and a checklist of species found in Southern Thailand. ZooKeys, 26: 33-51.